

# 令和7年度 国分寺市社会教育委員の会議 第5回定例会

日 時：令和7年9月5日（金）午前10時～

会 場：①なみき牧場、②並木公民館

## 1 開会

## 2 懇談（於：なみき牧場）

「認定NPO法人 冒険遊び場の会 代表理事」との懇談

→ コロナ前は屋外なのに人数や時間の制限があった。コロナ禍でどうすれば人と人とが繋がるができるのかを考え、ポストを設置し、手紙でやり取りした。プレイリーダーは返事を掲示するなど工夫した。

コロナ明けで、人と人とがコミュニケーションができなかった結果、子どもたちの暴言や暴力が目立つようになったが、学校に行けなかった影響と思われる。プレイステーション（以下「プレステ」）でも授業の一環として大学生を受け入れているが、大学生自体コミュニケーションが取れない。自発的に動かない学生がほとんどで、高校生の時にコロナ禍だった影響と思われる。

プレステは、学校に行けない子どもや発達障害の子どもなど様々な子どもが来るが、プレイリーダーがマンツーマンで対応できる。プレステは命に関わること以外、何でもできる場所。プレイリーダーは様々な研修を受けている。

- 学校ではコロナが開けてもマスクを着けたままの子どももおり、表情が分からない。
- 学校にはルールがある。ルールに馴染めない子の居場所がプレステ。
- 学校でやるべきこと、プレステでやるべきこと、それぞれの役割がある。
- 家庭、学校、居場所の関係性がコロナ禍で希薄化が顕著となった。プレステを知らない教員も多かった。学校も地域に開かれたものとして、地域と触れ合う学習（国分寺学）も展開している。地域ぐるみで子どもを育てる環境にしていく。
- 居場所は学校でなくてもいい。国分寺学は子どもと大人とを繋げることも。
- 場の違いでできることも違う。違うことがキーワード。
- 研修会に向けて、準備を進め、事前にまた打合せしたい。

## 3 協議事項（於：並木公民館）

### (1) 令和7年度第2ブロック研修会について

- 研修の流れとしては、事例発表ではプレステ20分、ディスカッション15分で、副議長がコーディネーター役として進行する。

- グループ討議のモデル版となればいい。3分野の担当もディスカッションに加わる。
- グループ討議の班は、6人程度。
- 事例発表からのキーワードを軸に、グループ討議を進め。
- 事例発表のテーマとしては「居場所から見えてくる子どもたちの姿」。内容としては、それぞれの立場で見えてくる現状と課題を想定。
- 総合司会は、社会教育課長。
- 学校紹介のビデオは、タイトル説明した後に流す。
- 教育長には、挨拶の中で、研修のテーマに繋がる国分寺学とコミュニティスクールに触れるようお願いしたい。
- 研修前日の11月28日（金）にリハーサルを行う。
- 研修当日は12時に集合。

(2) 11月6日開催の教育委員との懇談について

- 答申における5つの提言の具現化に向けての活動や今回の第2ブロック研修を題材として懇談を進めるイメージ。

#### 4 閉会

#### <配布資料>

- 資料1 第56回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会 開催要項
- 参考資料 前回の会議要旨